

日本450社および世界1500社以上の 実績を持つRPAリーディングカンパニー UiPathご紹介資料

2018年8月21日

UiPath株式会社

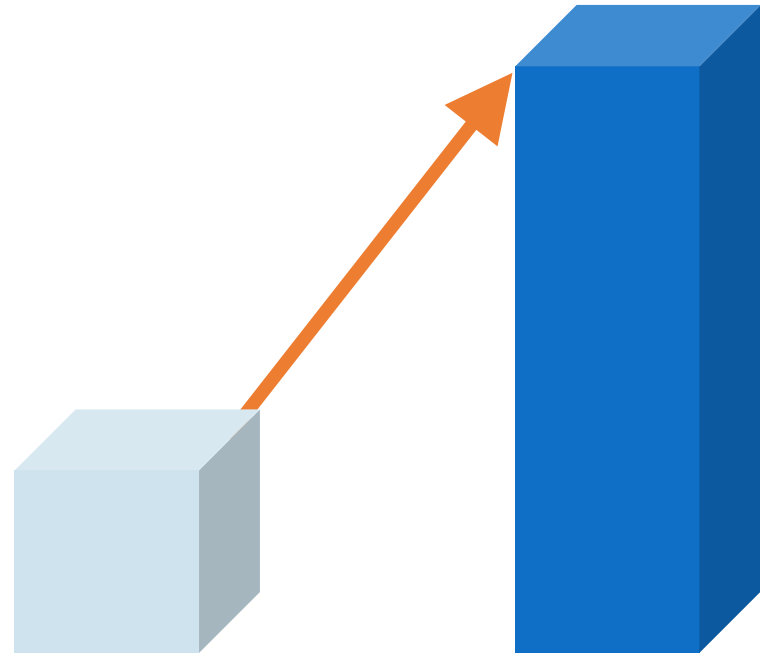


1. 日本および世界市場における実績
2. UiPath製品の主な特長/強み
3. UiPath製品トレーニングプログラム/
日本語サポート体制
4. ユーザーコミュニティによる
RPA活用共有

UiPathの実績

日本450社および世界1500社以上の実績を持つRPAリーディングカンパニー

世界リーディングカンパニー

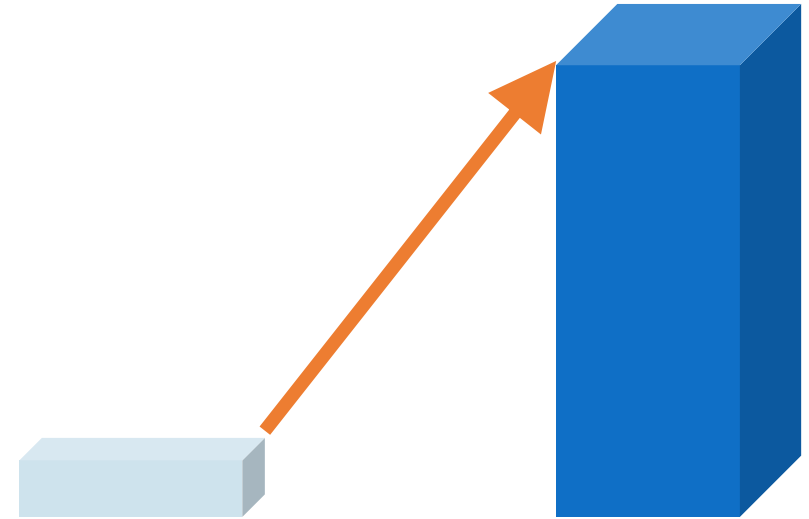


98社
2016年12月

1500社以上(*)
2018年6月

(*)大規模ユーザー数のみ

国内リーディングカンパニーへ



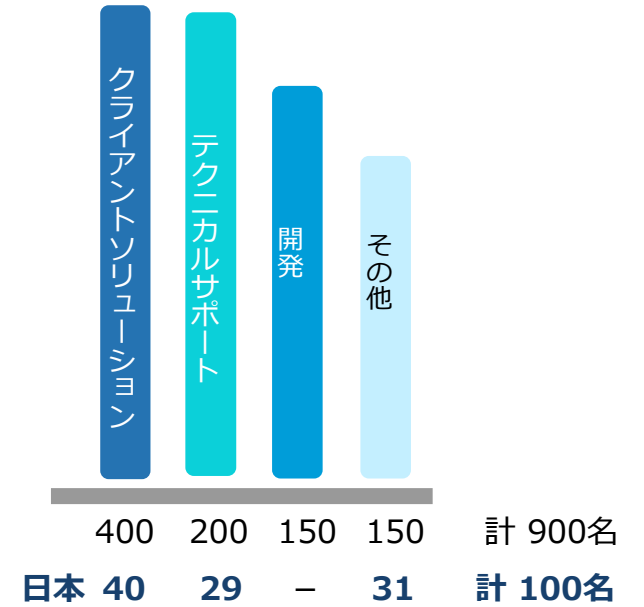
6社
2017年6月

450社
2018年8月中

UiPathのグローバルなビジネス拠点



UiPathの部門構成（2018年8月時点）



クライアントソリューション部門とテクニカルサポート部門では、エンジニア及びコンサルティング経験を持つ正社員が、お客様でのUiPath製品ご利用の、計画、導入、技術支援に取り組んでいます。

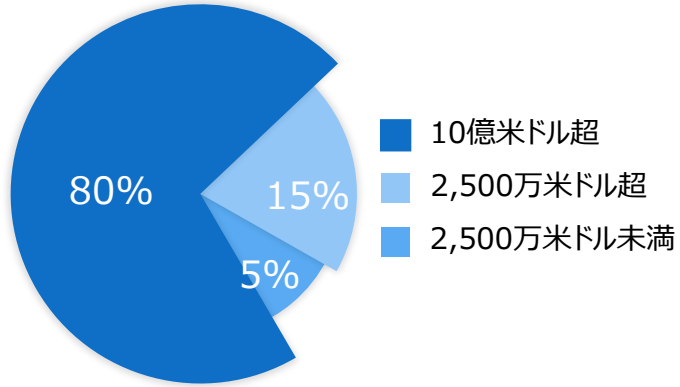
本社：ニューヨーク（米国）

- 米国
- ルーマニア
- 英国
- インド
- **日本**
- フランス
- ドイツ
- スペイン
- オランダ
- UAE
- シンガポール
- オーストラリア
- 香港
- ソウル
- ※北京、上海、蘇州（予定）

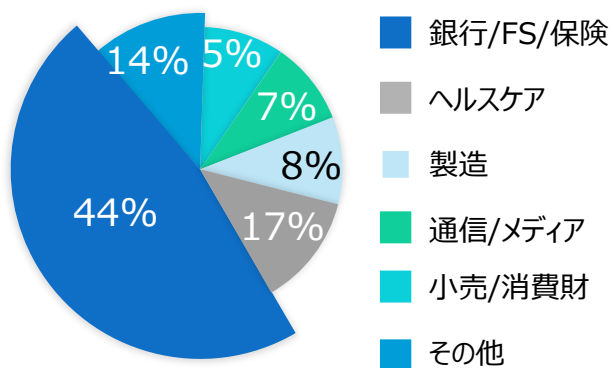
グローバルの主な顧客（抜粋）

UiPathは、Versatile（汎用的）な製品であり、様々な業界にて活用されております。

売上高別（2017年10月）



業界別（2017年10月）



UiPath グローバルの顧客セグメント（抜粋）

金融	通信・メディア	小売・消費財	ハイテク・製造	エネルギー	ヘルスケア	運輸・サービス
            	          	      	        	     	       	         

投資家達からの信頼

UiPath は記録的な成長を受けAccel 社より 約175億円のシリーズB資本を調達 (2018年03月07日)



Robotic Process Automation

March 7, 2018 01:00 UTC

世界のRPAリーディングベンダーであるUiPath社（本社 米国）の評価額は 10 億ドル以上。デジタルフォーメーションやAI連携の戦略的RPAツールであることを実証。

ニューヨーク(BUSINESS WIRE) (ビジネスワイヤ) -- **ロボティクス・プロセス・オートメーション (Robotic Process Automation, 以下RPA)** のエンタープライズソフトウェア企業の世界大手であるUiPathは、昨年、会社設立以降の最も高い成長を実現し、1億5300万ドルのシリーズB資本調達を実施しました。前回の投資ラウンドをリードしたAccel 社は、今回新たに加わったCapitalG 社と Kleiner Perkins Caufield & Byers 社と共にラウンドに参加しました。また、UiPathのシードの投資機関であるEarlybird's Digital East Fund社、Credo Venture社、及びSeedcamp社は今回も多額の投資を実施しました。

2015年の発売以降、UiPath は、エンタープライズ RPAのプラットフォームとして最も採用されています。UiPath社のソフトウェアは、ソフトウェア・ロボット (デジタル・ワーカー) の迅速な設計、開発が可能で、反復的業務を自動化して生産性向上を強力に推進しながらもコンプライアンスを保証し、バック・オフィス・オペレーションとフロント・オフィス・オペレーションの双方から顧客サービスを向上させます。

2017年にUiPath を導入した企業は、一昨年の約100 社から700 社以上へと急速に広がり、年間収益は 8 倍に増大しました。昨年新たに導入をした企業は、BMWグループ、CenturyLink、Dairy Farm Group、株式会社電通、Huawei、Morningstar、株式会社三井住友フィナンシャルグループ など世界規模の企業が名を連ねます。UiPathが提供するコミュニティーには世界中の 12 万人以上の RPA 開発者が参加しています。RPAの普及を目指し、誰もが平等にRPAを使えることを企業理念としており、ソフトウェアをオンラインで簡単に利用しながら学べるオープントレーニングプラットフォーム、UiPath Academy では、世界中の誰でも入学して学習でき、誰もが平等に参加できるような場を提供しています。

新たに調達した資本で、製品ロードマップをより加速させ、特に機械学習やAI アルゴリズムを顧客のデジタルビジネスと革新的に統合することを使途目的としております。現在UiPath では 10 か国に500 人以上の社員を擁し、今第一四半期にアムステルダム、ヒューストン、ミュンヘン、パリ、ソウル、及びワシントンD.C.、に新たに拠点を設立し、グローバル展開を継続的に拡大しています。

概要

1. Accel社が、シリーズAに引き続き投資

2. Google社テクニカルアドバイザーのCapitalG社も出資に参加

3. UiPath社の現在の評価額は約1100億円以上

3rd Party Evaluation (Forrester Research)

2018.Q2の調査によると、UiPathはリーダーポジションと評価された。

凡例
0.00: Weak, 5.00: Strong

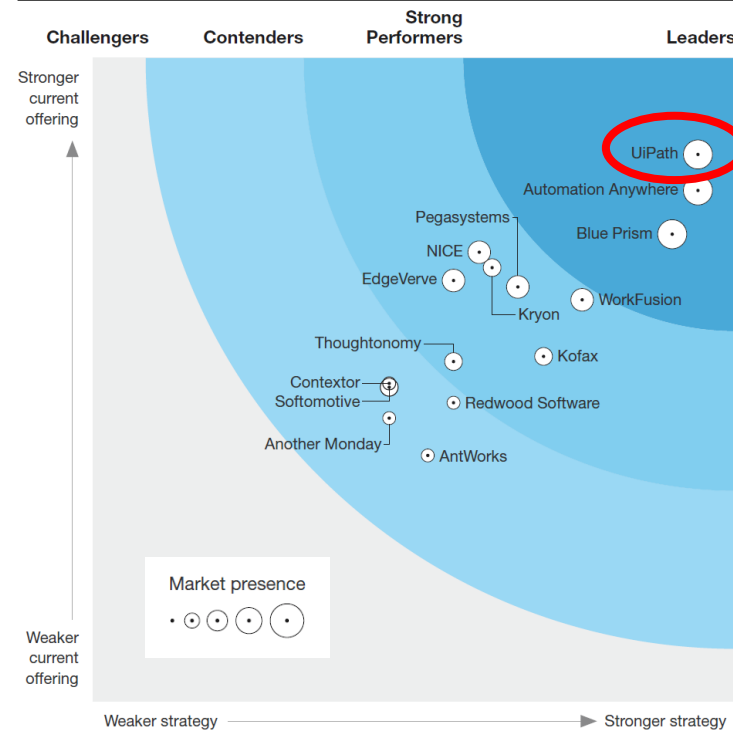
Forrester Wave: Robotics Process Automation*

Score Card of UiPath (2017.Q1* vs 2018.Q2*)

2017.Q1



2018.Q2

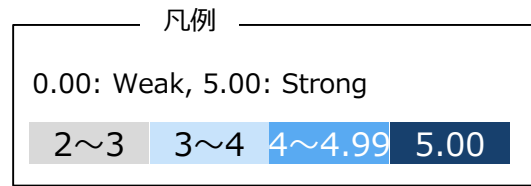


	2017 Q1	2018 Q2
1. Current Offering	3.53	4.25
- Bot Dev & Core Functions	3.25	4.50
- System Mgmt, Reporting, Resilience	3.80	4.32
- RPA Analytics	3.66	3.50
- Architecture	3.99	5.00
- Breath of Use Case	2.75	4.00
- Governance, Security, and Service Availability	3.66	4.32
2. Strategy	4.00	4.70
3. Market Presence	2.00	5.00

* 出所: The Forrester Wave: Robotic Process Automation, Q1 2017, The Forrester Wave: Robotic Process Automation, Q2 2018

3rd Party Evaluation (Forrester Research)

ほぼすべての項目において、優れている (スコア4以上) との評価である。



Forrester Wave: Robotics Process Automation Score Card, Q2 2018*

	UiPath	Blue Prism	Automation Anywhere	Kofax	NICE	Pega	WorkFusion
1. Current Offering	4.25	3.63	3.97	2.68	3.49	3.22	3.12
- Bot Dev & Core Functions	4.50	3.00	3.50	3.00	3.50	3.50	2.50
- System Mgmt, Reporting, Resilience	4.32	3.00	3.66	3.00	2.34	3.68	3.66
- RPA Analytics	3.50	3.00	4.00	2.00	3.50	3.80	4.20
- Architecture	5.00	4.32	4.34	2.98	3.66	3.00	2.98
- Breath of Use Case	4.00	3.40	4.00	2.80	4.00	3.00	2.40
- Governance, Security, and Service Availability	4.32	5.00	4.32	3.00	4.34	2.34	3.68
2. Strategy	4.70	4.50	4.70	3.50	3.00	3.30	3.80
3. Market Presence	5.00	5.00	5.00	3.00	3.66	3.66	3.66

* 出所: The Forrester Wave: Robotic Process Automation, Q2 2018

日本の主な顧客 (抜粋)

金融



- メガバンク
A行、B行、C行
- 信託銀行
A行、B行
- 大手証券会社
A社、B社、C社、
D社、E社
- 大手保険会社
A社、B社、C社、
D社、E社
- 大手リース会社
A社、B社

製造



- 自動車会社
- フィルム・デジタルメーカー
- 印刷・電子デバイス
- 精密機械メーカー
- 電気メーカー
- 素材メーカー
- 食品メーカー
- ヘルスケア会社
- 製薬会社

商社



- 総合商社
A社、B社、C社

情報・小売 ・サービス



- 小売 A社、B社
- 通信会社
A社、B社、C社
- 広告会社
- 人材派遣会社
A社、B社、C社
- ITメディア会社
- ゲームソフト会社
- モバイルソフト

運輸



- 鉄道会社 A社
- 航空会社 A社

エネルギー



- 電力会社
A社、B社、C社
- エネルギー会社

官公庁・ 自治体・教育



- 大学
A大学、B大学

<ご参考> プレスリリース (SMFG様・電通様・損保ジャパン様・JPX様)

UiPath、三井住友ファイナンスグループ および三井住友銀行による、世界でも有数の規模とスピード感を持つRPA導入プロジェクトを全面支援 (2017年11月14日)

東京--(BUSINESS WIRE)-- (ビジネスワイヤ) -- ロボティック・プロセス・オートメーション (Robotic Process Automation 以下、RPA) ソフトウェア企業UiPath社 (本社 米国) の日本法人であるUiPath株式会社 (本社 千代田区大手町 代表取締役 CEO 長谷川康一、以下「UiPath」) は、株式会社三井住友ファイナンスグループ (執行役社長グループCEO : 國部 毅、以下「SMFG」) および株式会社三井住友銀行 (頭取CEO : 高島 誠、以下「SMBC」) が2017年4月より開始した生産性向上、効率化推進を目指す業務改革の取組みを支援しています。

SMFGおよびSMBCでは業務改革への取り組みの一環としてRPAの活用を推進しています。UiPathは世界でも有数の規模とスピード感を持つこのRPA導入開発プロジェクトに対して、RPAソフトウェアを提供しています。またUiPathソフトウェアの先進的な利用やインフラ構築に関するサポート、さらにSMFGおよびSMBCのパートナー各社 (※1) とも協業してITカバランスの整備や開発手法の標準化、セキュリティへの対応などのアドバイスも行っています。

SMBCでは本部部署の業務見直しを行い、無駄な業務の廃止、重複業務の集約を進めるとともに、残存業務の中でRPAに代替可能な業務について、RPAによる自動化を進めています。コンプライアンス・リスク関連業務、業界情報やお客様の取引情報などの収集業務、営業店でのお客様宛運用報告書、住宅ローンチラシ作成業務など約200業務での自動化が既に実現しており、40万時間 (開発着手分を含むと約65万時間) の業務量が削減されています。SMBCでは今年度末迄には100万時間、3年以内に300万時間 (約1,500人分の業務量) 以上の業務削減を計画しています。

SMFGおよびS

1. 使い易い操
2. 高いスケ
3. 目的に合
4. 早い段階カ

損害保険ジャパン日本興亜株式会社のデジタル技術活用による業務効率化・品質向上取り組みにおいてUiPath RPAソフトウェアの採用が決定 (2018年2月1日)

東京--(BUSINESS WIRE)-- (ビジネスワイヤ) -- ロボティック・プロセス・オートメーション (Robotic Process Automation 以下、「RPA」) ソフトウェア企業UiPath社 (本社 米国) の日本法人であるUiPath株式会社 (本社 : 東京都千代田区 代表取締役 CEO 長谷川康一、以下「UiPath」) は、損害保険ジャパン日本興亜株式会社 (本社 : 東京都新宿区、取締役社長 : 西澤 敬二、以下「損保ジャパン日本興亜」) におけるRPA化の取組みで、UiPathのソフトウェアが採用されたことを発表する。

SMBCホールディングスでは「SMBC Digital Lab」を東京とシリコン

UiPath、「テクノロジーで拡張する働き方」を実現するため、RPAソフトウェアを電通に提供し、導入プロジェクトを支援 (2017年11月29日)

東京--(BUSINESS WIRE)-- (ビジネスワイヤ) -- ロボティック・プロセス・オートメーション (Robotic Process Automation 以下、RPA) ソフトウェア企業UiPath社 (本社 米国) の日本法人であるUiPath株式会社 (本社 : 東京都千代田区 代表取締役 CEO 長谷川康一、以下「UiPath」) は、「テクノロジーで拡張する働き方」を実現するため、RPAソフトウェアを株式会社電通に提供し、同社の導入プロジェクトを支援してまいります。

電通では労働環境改革を重要な経営課題の一つとして位置付け、様々な取り組みを進めています。UiPathによるRPA導入はその施策の一つであり、UiPathのRPAソフトウェアは同社において2017年末までに400工程で採用される見込みです。また、当社はRPAソフトウェアの提供にとどまらず、RPAガバナンスや各種標準化の整備、RPA開発者向けトレーニングなどのアドバイスやテクニカルサポートも行っています。

UiPath導入必
要した作業カ
り、月次での
全社レベルで
RPAソフト

UiPathのRPA
ツールの利用
おります。

UiPath、高品質なオペレーションの実現を目指す日本取引所グループにRPA (Robotic Process Automation) ソフトウェアを提供 (2018年4月9日)

東京--(BUSINESS WIRE)-- (ビジネスワイヤ) -- ロボティック・プロセス・オートメーション (Robotic Process Automation 以下、RPA) ソフトウェア企業UiPath社 (本社 米国) の日本法人であるUiPath株式会社 (本社 : 東京都千代田区 代表取締役 CEO 長谷川康一、以下「UiPath」) は、株式会社日本取引所グループ (本社 : 東京都中央区 取締役兼代表執行役グループ CEO 清田 瞭、以下「JPX」) にRPAソフトウェアを提供し、同社のRPA導入プロジェクトを支援してまいります。

「UiPathForward Japan 2018」

 Tweet this

JPXは、市場運営者として公共的な役割を果たしつつ企業価値を持続するためには、堅実かつ安定的に業務を運営する体制を維持することが必要不可欠であると考えています。そのためには、業務品質を担保しつつ、業務の質的改善を促し、高品質なオペレーションの実現やテクノロジーを活用した働き方改革を進めることを目的として、RPAの導入を進めています。

JPXでは2017年5月より実機検証を開始し、概ね各業務プロセスでのRPAの活用が有効であることを確認しました。そのうえで、

<ご参考> 電通様の取組

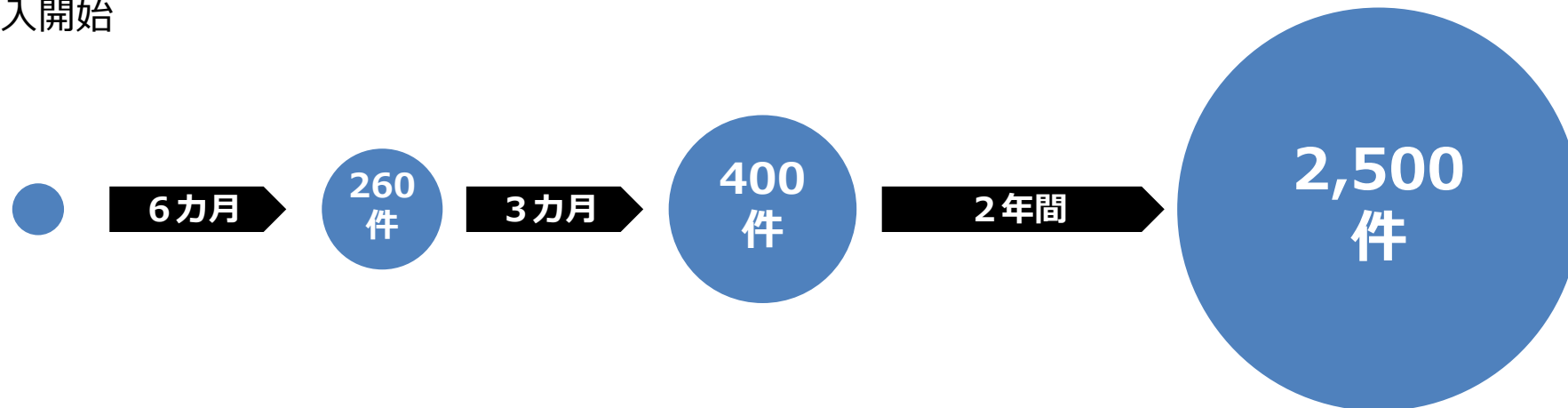
株式会社電通様でのUiPathによる自動化業務件数の推移
(日経コンピュータ 2017年11月23日号より抜粋)

2017年4月
導入開始

2017年10月

2017年末

2019年末



働き方改革を推進する電通ビジネスプロセスマネジメント局業務推進室長の小柳肇氏は以下の様に述べています。

「我々のプロジェクトのゴールは、社員一人ひとりのワークライフバランスを改善し、生産性の向上を図ることです。そのためにも社内の多岐にわたる業務に対して RPA により継続的に業務自動化が行わなければなりません。UiPath 社の RPA ソフトウェアは、開発支援ツールが使いやすく、また充実しており 多種の業務を短期間で開発できます。また、各ユーザー部門のニーズから出発して将来 RPA が全社規模になっても統合的なロボット管理が行えるため、我々の目標とする RPA 活用を浸透させていくプロジェクトに最適のソフトウェアであると判断しました。グローバルのリーディングベンダーとしての RPAノウハウの提供および日本でのサポート体制も充実しており、現在、電通では、AI や Cognitive の活用による RPA の 業務高度化にも取り組んでいます。それらに対応できる幅広い API が備わっているところも UiPath を評価する理由です。」

(UiPath 2017/11/30 ニュースリリースより抜粋)

日本の主なパートナー (抜粋)

(2018年3月時点にて46社)



製品選定の主な決め手 (Top 4)

1. グローバル及び国内における様々な業界における
導入実績 (1000社*以上)

2. セキュリティーに対する信頼感
(金融/証券業界40社**における採用実績)

3. 導入経験豊富なパートナー数 (46社***)

4. ローカルでの技術力/サポート力を
持った人財によるサービス

* 2018年3月時点におけるグローバルのユーザー様数

** 2018年3月時点における国内金融業界（銀行、証券、保険）のユーザー様数

*** 2018年3月時点における国内パートナー様数



1. 日本および世界市場における実績
2. UiPath製品の主な特長/強み
3. UiPath製品トレーニングプログラム/
日本語サポート体制
4. ユーザーコミュニティによる
RPA活用共有

UiPath製品の主な特長

お客様がUiPathを選択した理由		選択の観点				
		生産性		管理・統制	拡張性	サポート
		開発	保守			
1	コンピュータビジョン <ul style="list-style-type: none"> MS Office製品やブラウザだけでなく、Java等で開発されたアプリケーション、汎用機エミュレータ等のUIを認識可能 Citrix等イメージ型インターフェースでも容易に開発可能 	●	●			
2	ユーザーフレンドリーなロボット開発 <ul style="list-style-type: none"> 高度なレコーディング機能 GUIを用い容易にワークフローを開発・メンテ可能 あらかじめ300種類以上のアクティビティを準備 	●	●			
3	Orchestrator (管理コンソール) <ul style="list-style-type: none"> 大規模なロボットの稼働を管理 アプリケーションのバージョン・ステータスを管理 ユーザー・セキュリティをきめ細やかに管理 		●	●		
4	機能の柔軟な拡張性 <ul style="list-style-type: none"> IBM Watson、Google Cloud Machine Learning等の代表的なAIやOCR等とweb APIを用い容易に連携可能 アクティビティのカスタマイズ開発が可能 				●	
5	充実した日本語サポート <ul style="list-style-type: none"> テキスト類の日本語化 日本語による無償・有償のトレーニングを提供 日本語によるカスタマーサポートを実施 	●	●			●

<ご参考> お客様からのフィードバック*による製品の強み

- MS Office製品やブラウザだけでなく、Java等で開発されたアプリケーション、汎用機エミュレータ等のUIを認識可能
 - Citrix等イメージ型インターフェースでも容易に開発可能
- 高度なレコーディング機能
 - GUIを用い容易にワークフローを開発・メンテ可能
 - あらかじめ300種類以上のアクティビティを準備
- 大規模なロボットの稼働を管理
 - アプリケーションのバージョン・ステータスを管理
 - ユーザー・セキュリティをきめ細やかに管理
- IBM Watson、Google Cloud Machine Learning等の代表的なAIやOCR等とweb APIを用い容易に連携可能
 - アクティビティのカスタマイズ開発が可能
- テキスト類の日本語化
 - 日本語による無償・有償のトレーニングを提供
 - 日本語によるカスタマーサポートを実施

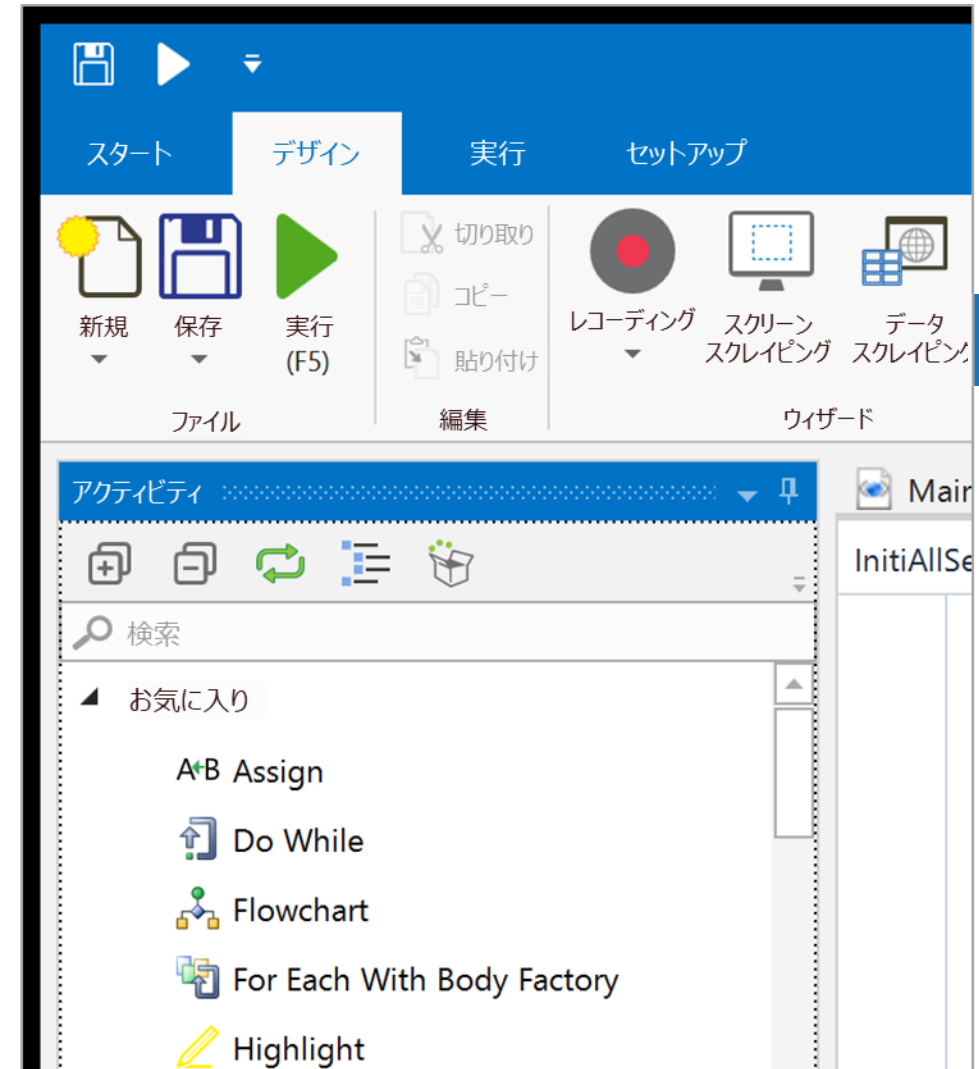
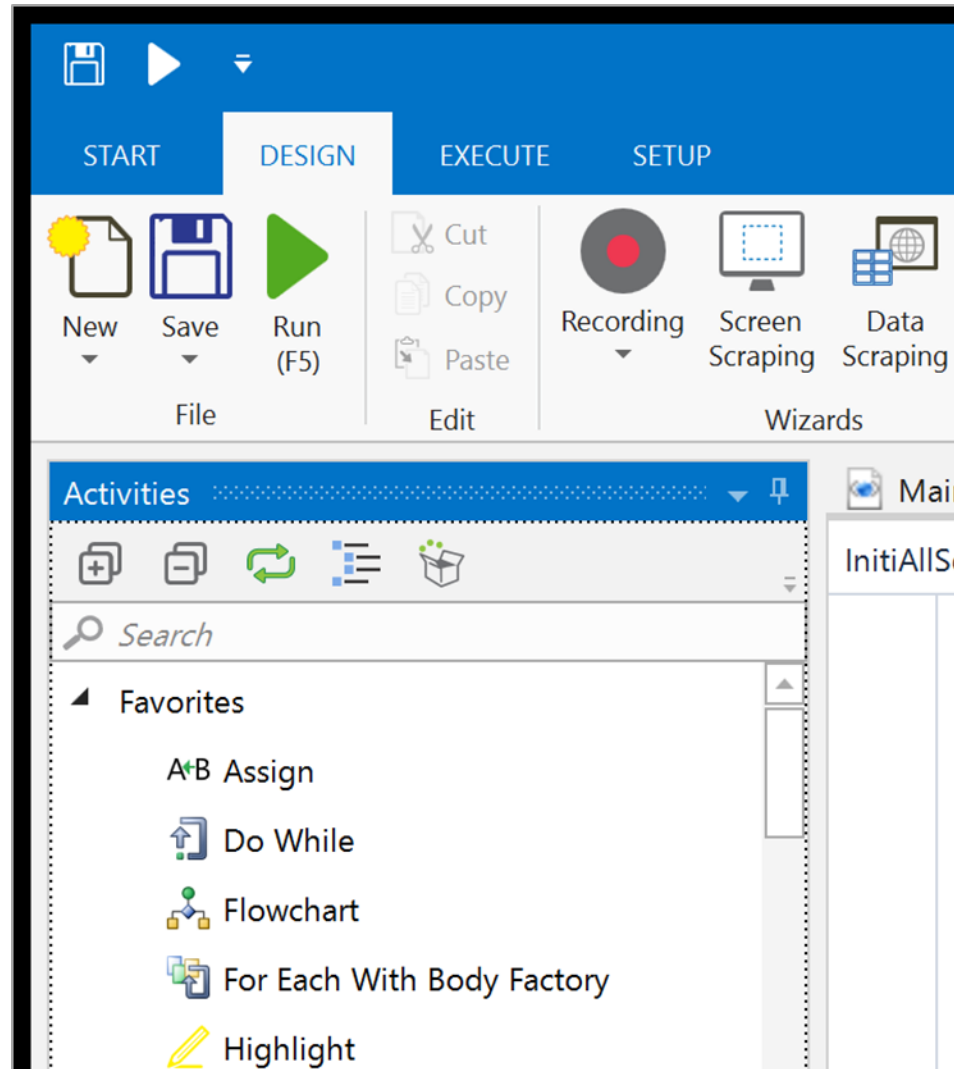
	UiPath	製品A社	製品B社	製品C社	製品D社
1. コンピュータービジョン	◎	○	◎		
2. ユーザーフレンドリーな操作性	◎	○	○	○	◎
3. スケーラビリティ (SmallからEnterpriseまで)	◎				
4. 柔軟な拡張性 (API連携)	◎	○	◎	○	
5. 日本におけるサポートの充実性	◎			○	◎

* あくまでもUiPathを導入されているお客様からのフィードバックです。お客様の使用されているアプリケーションやシステム環境によってコメントは異なります

製品ユーザーインターフェースの日本語化（2018年夏頃）

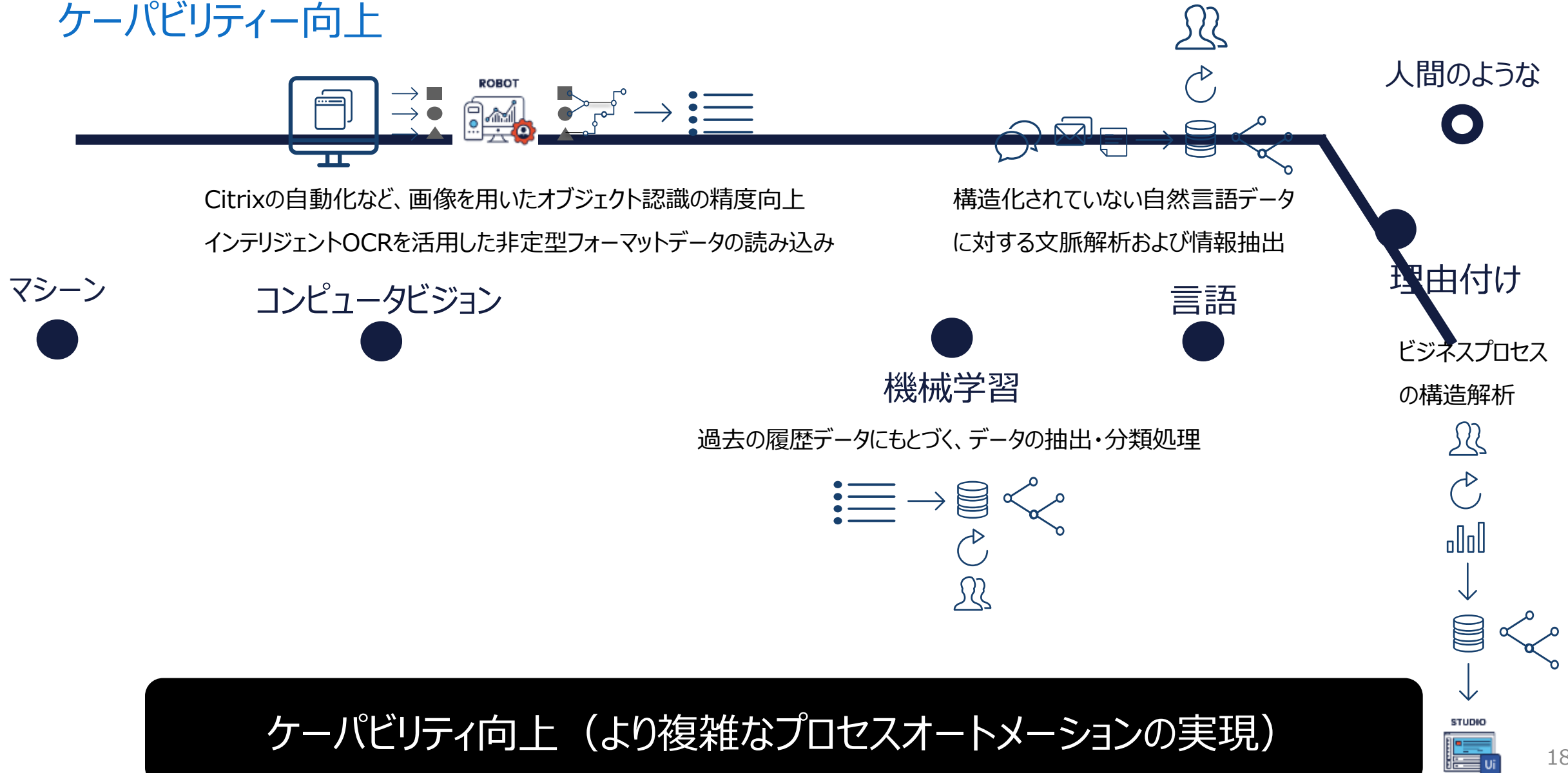
English UI

Japanese UI



UiPath製品のロードマップ概要 (1/3)

ケーパビリティ向上



ケーパビリティ向上 (より複雑なプロセスオートメーションの実現)

UiPath製品のロードマップ概要 (2/3)

アジリティ向上

非常に高いスキル



ユーザー
の有効化

テクニカルスキルの要求を軽減する操作性の向上

統合



- お客様がご利用される様々なシステムに対する柔軟な操作連携
- OCR/AI/Cognitive/BPM等の連携



複雑さ

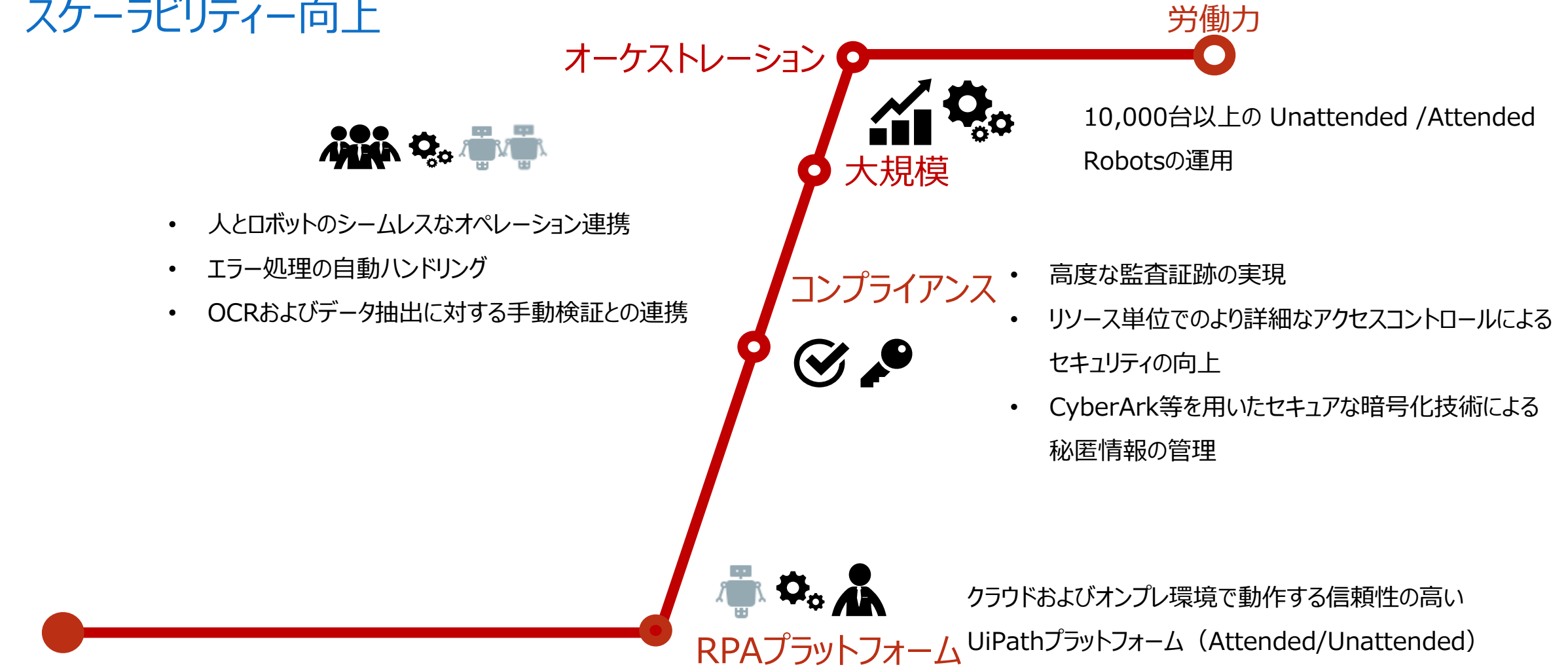
- お客様、業界、機能別のUiPathライブラリを登録
- 導入や運用のためのトレーニングの充実
- オープンコミュニティによる開発者と導入ユーザーのサポート

容易さ

アジリティ向上 (短期で、容易に実現可能な良好な
カスタマー・エクスペリエンス)

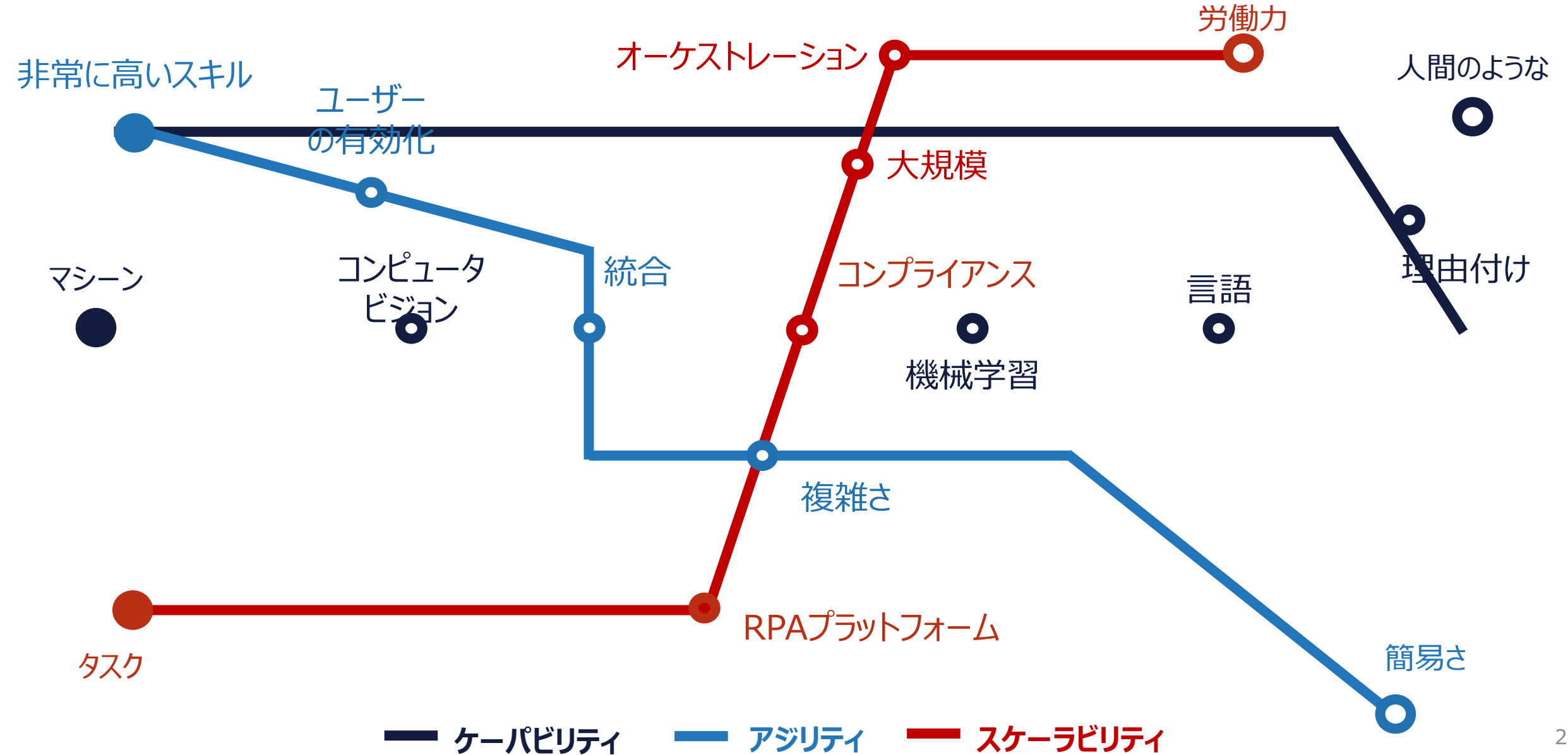
UiPath製品のロードマップ概要 (3/3)

スケーラビリティ向上



スケーラビリティ向上 (様々なセキュリティ、リスク・コンプライアンスレベルへ対応可能なプロセスオートメーションの実現)

<ご参考> RPA & AIのメトロマップ (大手町地下鉄マップ)





1. 日本および世界市場における実績
2. UiPath製品の主な特長/強み
3. UiPath製品トレーニングプログラム/
日本語サポート体制
4. ユーザーコミュニティによる
RPA活用共有

UiPathトレーニング（概要）

UiPathグローバル トレーニングプログラム – Academy

- 日本語にてトレーニングを受講可能
- 力強くRPAを推進できる人材を育成
- e-Learning（ホームページとYoutube）にて、どなたでも無償で受講可能（修了証を取得可能）

テクニカルコース

Foundation（基礎）
トレーニング

Orchestrator 2016.2
トレーニング

Advanced（上級）
トレーニング

Infrastructure
トレーニング

ビジネスコース

RPA Awareness
トレーニング








RPA ビジネスアナリスト
トレーニング

UiPath日本 トレーニングプログラム

- グローバルのトレーニングを日本語HPおよびYoutubeにて提供
- 顧客ニーズに合わせた1社向けカスタマイズ研修の充実
- ユーザー会、コミュニティ等のイベントの開催
- 国内トレーニングパートナーによる研修



<ご参考> UiPathトレーニングプログラム

	RPA開発者向け					RPA推進者向け		
	日本オリジナル	Academy - RPA 開発者用モジュール (標準トレーニングコース)			オプションモジュール	インフラモジュール	RPA概要モジュール	ビジネスアナリストモジュール
	UiPath実機操作	Level 1 – Foundation (基本)	Level 2 – Orchestrator 2016.2 (*)	Level 3 – Advanced (上級)	SAPオートメーション (*)	RPAインフラストラクチャ	RPA Awareness (概要)	RPAビジネスアナリスト
学習タイプ 	自習	自習	自習	講師	自習	講師	講師	講師
学習形態 	テキスト配布	オンライン	オンライン	集合研修	オンライン	集合研修	集合研修	集合研修
時間 	平均4時間	平均40時間	平均4時間	5日	平均3時間	1日(2日目オプション)	4時間	1日(2日目オプション)
人数 	無制限	無制限	無制限	最大10人/セッション	無制限	最大15人/セッション	最大15人/セッション	最大15人/セッション
価格 	有料 *一部パートナーが提供	無料	無料	有料	無料	有料	有料	有料
認定証 	なし	修了証	修了証	試験合格者に資格認定証	修了証	修了証	なし	なし
日本語版リリース時期 	2017年	2017年	2017年	2018年 Q1	2017年	2018年 Q2	2018年 Q2	2018年 Q2

充実した日本語サポート

：日本語のマニュアルおよびカスタマーサポートを提供済み



フォーラム (UiPath Forum)

- UiPathの公式ユーザーフォーラム（Q&A, FAQ, Feedback等）
- TIPS等の調査に活用
- 日本カテゴリーも運営中（日本語によるQ&AとFAQ）

ビデオチュートリアル

- 日本語ナレーションにより各機能の使用方法を動画で確認可能

ガイド (Document Portal)

- Studio, Robot, Orchestrator, Activitiesのドキュメントポータル
- インストール、使い方、アクティビティ説明等参照

ナレッジベース

- 各種ナレッジベースの記事へのリンク

カスタマーサポート

- 購入済・購入予定のお客様からの問合せを受け付け
- ガイドやフォーラムでわからなかった質問やバグレポートはこちらから送付いただく（日本語可）



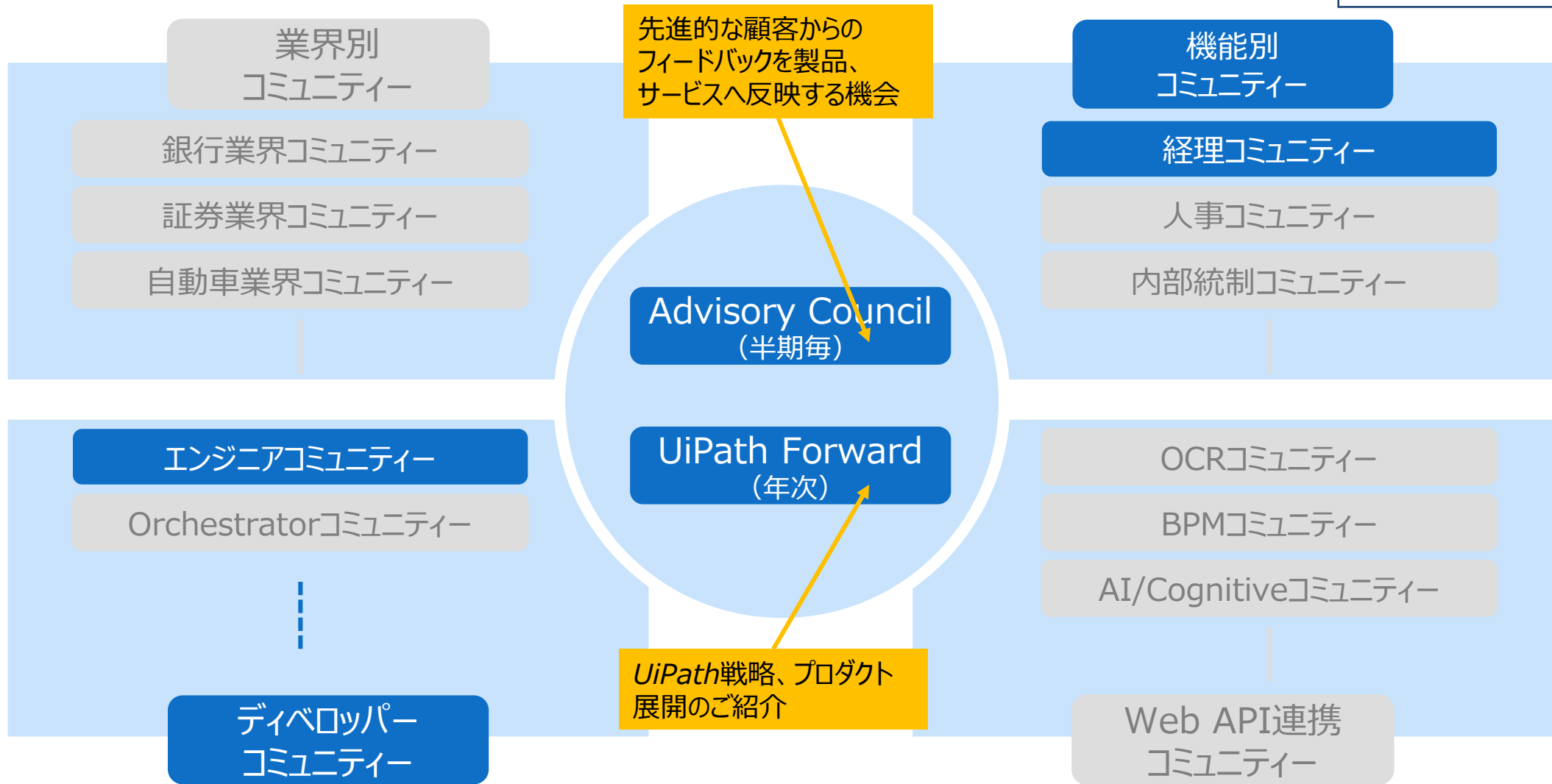
1. 日本および世界市場における実績
2. UiPath製品の主な特長/強み
3. UiPath製品トレーニングプログラム/
日本語サポート体制
4. ユーザーコミュニティによる
RPA活用共有

ユーザーコミュニティによるRPA活用共有

凡例

実施中

準備中



<ご参考>ユーザーコミュニティの実績

UiPath Forward Japan (2018年1月26日)



<アジェンダ>

1. UiPath グローバル戦略について
2. 日本市場の戦略と新年度プランについて
3. 株式会社SMBC様事例ご紹介①
4. 株式会社電通様事例ご紹介②
5. 海外ユーザー事例のご紹介
6. パートナーラウンドテーブル
「欧米動向と2018年の日本の展望」
7. UiPath 製品ロードマップ

Daniel Dine
長谷川 康一
山本 慶 様
小柳 肇 様
Bobby Patrick
アクセンチュア、デロイト
KPMG、PwC
Boris Krumrey

ディベロッパーコミュニティ (2018年3月28日)



- UiPathのディベロッパー：グローバルで約15万人、国内2700人 (2018年3月時点)
- ディベロッパー向けコミュニティにて、ディベロッパーの活発な交流/NetworkingやUiPath製品の最新トピックスに関する紹介/トレーニングなどを実施中



Appendix
- プレスリリース

プレスリリース (1/11)

2018年3月ダイヤモンドオンライン

まず、大規模導入である。あちこちで、バラバラで導入しても、効果は知っている。個人レベルから始めて、部署レベルに引き上げ、最終的に経営の全面的支援の下に、全社的に展開していく現場の自動化ができると、効果は想像を超えるものになるだろう。

次に、安定稼働だ。RPAの強みは、既存のアプリケーションを変更することなくアクセスできること事だ。逆にいうとRPAは既存のハードウェア、OS、アプリケーションの変更による影響を受ける。したがってRPAはIT環境の変化に対していかに安定的に適応するかその能力が問われる。

次のステップで大事なものは「RPA + AI」という考え方だ。AI + RPAの順番では決していない。まずは現場の自動化ありきで、それをやり始めると見えてくる新たな課題にAIやコグニティブ、OCR（光学文字認識）、BPM（ビジネス・プロセス・マネジメント）のテクノロジーを連携させることが重要だ。

RPAがAIと連携すると、現場の自動化は一気に加速する。RPAのエグゼキューションログをAIが機械学習によって読み込むことによって、例外処理が自動化可能になる。RPAで自動化できた範囲を広げるために、AIを使い始めると実効的に効果が実現できてくる。

大規模導入と安定稼働が実現されれば、AIと連携して全社レベルのインテリジェント化が可能になる。

<http://diamond.jp/articles/-/164975>

RPAによる業務の効率化・高度化で 日本企業は再び競争力を取り戻す

2018.3.30 長谷川康一 (UiPath代表取締役CEO)

シェア ツイート いいね! 91

働き方改革の“実効的ソリューション”として期待されるRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）だが、ここに来て、日本でも先進企業による導入が相次ぎ、経営層の関心度は高まっている。世界有数のRPAベンダー、UiPathの日本法人でトップを務め国内外の最新事例に詳しい長谷川康一氏が、RPA導入に成功するためのポイントなどについて語った。

「課題先進国」の日本では生産性の向上が急務
日本の要求水準はグローバルの基準の先駆けとなる



長谷川康一 UiPath代表取締役CEO
1983年、慶應義塾大学法学部卒業後、アーサーアンダーセン（現アクセンチュア）入社。1993年、ゴールドマン・サックス入社。ニューヨーク

諸々の問題を他国に先駆けて抱え「課題先進国」といわれる日本において、生産性の向上は急務となっている。日本の一人当たり労働生産性はOECD加盟国35カ国の中で21位、先進7カ国のなかでは最下位に沈む（2016年）。これに加えて、少子高齢化・労働力不足が進展するなかで、生産性の問題は深刻度を増している。こうした背景を受け、官民挙げての働き方改革

プレスリリース (3/11)

<RPABANK インタビュー抜粋>

多くの日本企業は、顧客のニーズを満たすため、顧客と直接向き合う現場が主導する形でビジネスを進めています。個別のケースにきめ細かく対応する中で、相対的に少量かつ複雑な定型業務が大量に生じている上、業務品質へのこだわりが強く、セキュリティ要件も厳しい。つまり日本のオフィスには、まさにRPAの導入を必要とする多種多様な業務が眠っており、しかもそれらを自動化するにあたっては、きわめて高い水準の品質が求められるということです。

ですから、日本企業が抱くロボットへのニーズを深く理解して仕様や機能に反映し、日本のユーザーからの支持をしっかりと獲得して、その品質レベルをグローバル標準とすることで世界のどこでも通用する製品力の強化につなげた。われわれはそう考えています。

われわれの製品は開発拠点こそ海外にありますが、すでに日本を代表する企業が日本語環境のもとでなんら問題なく運用しており、ユーザーインターフェースに関しても早期に完全日本語化を実現する予定です。最も注力する市場である日本からのフィードバックをグローバルな製品の改善に役立てていくとともに、先進事例の共有やトレーニング、開発における体制の標準化支援といった日本でのサポート体制も今年1年で充実を図ります。

<https://rpa-bank.com/interview/6655/>



プレスリリース (4/11)

UiPathよりのプレスリリース

損害保険ジャパン日本興亜株式会社のデジタル技術活用による業務効率化・品質向上取り組みにおいてUiPath RPA (Robotic Process Automation) ソフトウェアの採用が決定

以下抜粋

RPA化プロジェクトを推進する**損害保険ジャパン日本興亜IT企画部藤井リーダーは以下の様に述べている。**「定例業務のRPA化に取り組むことで、過剰な長時間労働をなくし、より創造的な業務へと取り組む時間を生み出すことが重要であると考えています。**UiPathのソフトウェアは、汎用的なAPIの設定など業務ニーズに十分に correspond できるソフトウェアであると期待しています。また、グローバルRPA市場をリードする企業であることも、海外を含めたグループ全体での展開を考えるうえで心強いと考えています。**」

(2018.2.1)

損害保険ジャパン日本興亜よりのプレスリリース



NEWS RELEASE

損害保険ジャパン日本興亜

2018年2月1日

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

RPAの本格導入による生産性向上

損害保険ジャパン日本興亜株式会社（代表取締役社長：西澤敬二、以下「損害保険ジャパン日本興亜」）は、生産性の向上に向けてRPA※の本格導入を開始します。2018年1月から約100項目にわたる業務を対象に、UiPath株式会社（代表取締役CEO：長谷川 康一）のソフトウェアを導入することで、年間40万時間以上の時間創出を目指します。

※RPA (Robotic Process Automation) : メールやエクセル、基幹システム等を利用した事務作業を、人間がPC端末を操作するとおりに操作するソフトウェア

プレスリリース (5/11)

早稲田大学よりのプレスリリース

早稲田大学プレスリリース

配布先：文部科学記者会、各社社会部



WASEDA University

2018年3月5日

早稲田大学

国内初の研究支援・財務システムを稼働し、研究力強化と財務体質強化を加速 RPAによる作業自動化で約30%の大幅な生産性向上も実現

早稲田大学（東京都新宿区戸塚町 総長：鎌田薫）は、2016年1月よりSAP ジャパン株式会社（東京都千代田区 代表取締役社長 福田 譲）の最新の会計システム「SAP S/4HANA」を基盤とする研究支援・財務システムを、アビームコンサルティング株式会社（東京都千代田区 代表取締役社長 岩澤 俊典）の支援により導入しておりました。このたびシステムが完成し、2018年4月より本稼働いたします。国内の私立大学としてはSAP S/4HANAの導入は唯一の事例となりますが、日本の学校法人会計の将来を見据え、グローバルスタンダードとして欧米の大学で多くの導入実績のあるSAPの有用性を強く認識して選定いたしました。

【研究支援・財務システム】

研究支援システムでは、SAP S/4HANAと個別開発を組み合わせることで、現段階では国内では事例のない、公的・民間研究資金の契約管理や、会計システムと連携した入金管理および研究費の適正執行を一元的に支援するシステムを構築しました。

また、財務システムでは、SAP S/4HANAの機能を活用し、学校法人会計基準における制度会計目的での管理と並行して事業活動別の予算実績管理を可能とするシステムを構築しました。

(2018.3.5)

<https://www.waseda.jp/top/news/57510>

【RPAによる作業自動化】

研究支援・財務システムの稼働と同時に、KPMG コンサルティング株式会社（東京都千代田区 代表取締役社長 宮原 正弘）の支援を受けて、日本の大学としてはじめてUiPath社（東京都千代田区 代表取締役 CEO 長谷川康一）のRPAツール「UiPath」を導入し、支払業務の一部を自動化することで、現状の約30%の業務削減（年間数千万円相当の生産性向上）を実現する見込みです。また、UiPathにより自動的な形式チェックを実装することでヒューマンエラーを排除することができ、作業品質の向上が期待されます。

また、新たに全学的なRPA導入推進体制を整備するとともに、今後は本学の関連会社である株式会社早稲田大学アカデミックソリューション（東京都新宿区 代表取締役社長 高木 範夫）が開発および運用保守を担い、AIを活用したRPAの検討など更なる業務改革を推進していきます。

プレスリリース (6/11)

(2018.1.31)



UiPathが国内初のユーザーコンファレンス「UiPath Forward Japan 2018」を開催（1月26日於ホテルニューオータニ東京）、日本は最重要投資拠点として投資を継続、本年中での画面UIの日本語化を発表（2018年1月31日）



東京--([BUSINESS WIRE](#))-- (ビジネスワイヤ) --ロボティック・プロセス・オートメーション (Robotic Process Automation 以下、RPA) ソフトウェア企業 UiPath社 (本社 米国) の日本法人であるUiPath株式会社 (本社 千代田区大手町 代表取締役CEO 長谷川康一、以下「UiPath社」) は、**1月26日 (金) にホテルニューオータニ東京 (東京都千代田区) にて、ユーザーコンファレンス「UiPath Forward Japan 2018」を実施した。** (詳細アジェンダは以下ご参照<https://uipath.event-infodesk.com/>)

今回のコンファレンスは、昨年2月に日本にUiPath株式会社が設立されて以来、初めての自社主催によるコンファレンスであった。**28社にも及ぶスポンサーよりの支援を受け、最終的に1,132名の参加を頂き、大盛況のうちに無事終了した。**

UiPath株式会社代表取締役CEO長谷川康一は以下のように述べている。「UiPathの日本法人が昨年2月に設立されて僅か1年弱で、100社を超えるお客様にUiPathユーザーとなって頂きました。また、本日のコンファレンスには1,132名の皆様にご参加いただきました。**私どもUiPathは本当に多くの皆様にご支援いただいていることを心から感謝致します。本年はRPAリーディングベンダーとして、日本でのUiPathサービス体制のさらなる向上を目指します。また、パートナー会社様とも協業しながら、UiPathプラットフォームがお客様の経営基盤の要となる様に取り組んで参ります。」**

今後、年1回のペースで、引き続き「Uipath Forward Japan」を開催していく予定である。

プレスリリース (7/11)

日本の需要は欧米より旺盛

サポート充実に力を注ぐ長谷川康一 UiPath CEO -日経BP社「まるわかりRPA」2017年11月16日

日本の需要は欧米より旺盛 サポート充実に力を注ぐ

コールセンター向けの業務自動化に起源を持つ英UiPath。
2017年初めに日本法人を設立し、本格的に事業を始めた。
「日本企業のRPAへの関心や導入意欲は欧米以上」。国内外の事情を知る
日本法人の長谷川CEOはこう語り、日本向けサポートを充実させる方針を示した。

—日本企業のRPA導入意欲をどう見ますか。

日本におけるUiPathの顧客で最も多いのが大手金融機関だ。メガバンクや証券会社、保険会社など幅広い。金融機関のシステム投資は大規模で、RPAによる自動化への需要も大きい。経営者の関心は高く、デジタル化や働き方改革といった問題認識は共通している。様々な種類のシステムを抱えているのでデータ入力のような単純作業も多く、RPAによる自動化への需要はあつと大きくなる。

日本でRPAがブームになって1年あまりたち、導入企業の業種は広がっている。製造業や電力会社などで導入プロジェクトが進む。他にも商社や広告代理店からのニーズも高い。

—先進企業のRPA活用内容は変わりつつあるのでしょうか。

RPAの活用で先行するのは欧米企業だが、経営層のRPAに対する関心度が言えば日本は欧米と同等もしくはそれ以上だと感じている。日本でRPAに興味を持つのは企業の中でも経営企画

室やデジタル戦略室といった部署だ。経営者の意向を受けて、3年や5年といった時間を掛けつつ本質的な競争力の向上を検討している。

RPAは汎用的、用途は幅広い

今までRPAを使う顧客は経営サイドが中心だった。これからはCIO(最高情報責任者)を中心とした情報システム関連部門でRPAの需要が高まるだろう。

—グローバルと日本の両市場を見ている立場から、企業がRPAを導入する意義を教えてください。

RPAは特定業界への導入に限定されない「サタイル(多目的)な存在だ。例えば証券会社のトレーディングシステムを自動化する時にトレーディングの知識はそれほど必要にならない。

証券会社のトレーディングシステムを開発したり改良したりするのならば、トレーディングの技法や知識が必要になる。しかしRPAでシステムの操作だけを自動化するならば、最終的なPC操作が分かれば十分だ。どの画面に何を入力してどのタイミングでクリックすればよいかという情報があれば良い。RPAは非常に汎用的な技術で、応用範囲を限定しない。

UiPathの社員は顧客に密着しながら問題解決に当たっている。顧客企業からの知見を蓄積することで、UiPathのツールもどんどん進化していく。

—日本市場への戦略は。

2017年10月現在、UiPathの日本人は27名の社員を抱える。我々は当初から日本市場を重視していた。ロボットの活用をはじめ、業務のデジタル

化に対する需要が高いと考えていたからだ。日本の顧客企業の要求水準は世界的に見ても高い。日本の顧客が満足するサービスなら世界中の顧客を満足させることができると確信している。

AIと連携、例外処理も可能に

今後、日本市場での導入を広げるために重点的に強化していくのはサポート体制だ。この10月には日本語による顧客サポートを始めた。製品の機能や操作方法などを電子メールを通じて日本語で尋ねることができる。オンラインの研修サービスの日本語対応や製品の日本語化はもちろん、顧客企業向けの教育・研修サービスも順次、日本語化を進める。

—RPAツールは今後どう進化しますか。

人工知能(AI)やBPM(ビジネス・プロセス・マネジメント)ツールとの連携が急速に進むだろう。保険会社のコールセンターを例に取れば、現在のRPAはマニュアルで決められた顧客対応業務を代行することが中心。保険を申し込みたい顧客の年齢や収入を基に、ルールに沿って保険の等級を決めるといった作業だ。マニュアルやルールに無い例外的な判断をRPAが下すのは難しい。

機械学習を活用すれば、既知の例外を学習させて新たな例外に対応できるようになる。将来的には、新入社員の人事台帳システムへの登録を米グーグルが提供する音声入力に任せることもできるようになるだろう。

(聞き手=玉置 亮太)

ユーアイパス

CEO(最高経営責任者)

長谷川 康一 氏

1983年に慶應義塾大学法学部卒業、アーサー・アンダーセン(現アクセンチュア)入社、その後パークレイズ銀行など外資系金融機関数社でアジア地域CIO、東京拠点取締役COOなどの役職を歴任し、17年1月より現職。

インタビュー編*キーパーソンが語り尽くす



プレスリリース (9/11)

ホワイトカラー業務自動化の先
長谷川康一 UiPath CEO
-日本経済新聞(2017年5月23日)

日経が発表した3月の全国企業短期経済観測調査(速報)は大企業全産業の雇用人員増減がおよそ25年ぶりの人員不足を示すものとなった。製造業などではロボットやIT(情報技術)端末を使った自動化で労働力不足を補う動きがあるが、ホワイトカラーの仕事はどうだろうか。

私はデータ入力などのコンピュータ作業を自動化するRPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)と呼ぶ技術で世界をリードする英企業の日本法人トップとして、ホワイトカラー業務の今後のあり方を伝えた。

ホワイトカラー職場では現在、様々なシステム化が進むものの、社員の作業負担はなかなか軽減されていないのではないかと、それはシステム間

「RPA」で働き方改革
ユー・アイ・パス 最高経営責任者(CEO) 長谷川 康一

主張

作業を自動的に実行できるソフトウェアは、人間がこなすのが難しい作業を、コンピュータが代わりにこなす。RPAは、人間がこなすのが難しい作業を、コンピュータが代わりにこなす。RPAは、人間がこなすのが難しい作業を、コンピュータが代わりにこなす。

事務自動化、日本で効力発揮

欧米ではRPAが注目され、利用が広がっている。こうした業務の自動化はホワイトカラー業務の生産性を大きく高めるはずだ。システムは24時間365日、疲れることなく働き続けてくれる。定型的作業をRPAに任せると、ホワイトカラーはより創造的で質の高い業務に取り組むことができる。

企業はRPAでは対応できないレベルの高い仕事をこなすことが求められるようになるため、より高いスキルを身につける必要性が高まる。

企業が業務手順をしっかり整備している日本はRPAとの相性が良く、大きなメリットを受ける潜在的な可能性がある。ホワイトカラー業務の自動化は労働力の減少に直面する日本にとって、労働生産性を向上させ、競争を続けるための重要な鍵となるのではないかと。

「RPA」で働き方改革
長谷川康一
UiPath CEO
-日刊工業新聞
(2017年7月17日)

ソフトロボが代替
「RPA」で働き方改革
ユー・アイ・パス 最高経営責任者(CEO) 長谷川 康一

主張

作業を自動的に実行できるソフトウェアは、人間がこなすのが難しい作業を、コンピュータが代わりにこなす。RPAは、人間がこなすのが難しい作業を、コンピュータが代わりにこなす。

事務自動化、日本で効力発揮

欧米ではRPAが注目され、利用が広がっている。こうした業務の自動化はホワイトカラー業務の生産性を大きく高めるはずだ。システムは24時間365日、疲れることなく働き続けてくれる。定型的作業をRPAに任せると、ホワイトカラーはより創造的で質の高い業務に取り組むことができる。

企業はRPAでは対応できないレベルの高い仕事をこなすことが求められるようになるため、より高いスキルを身につける必要性が高まる。

企業が業務手順をしっかり整備している日本はRPAとの相性が良く、大きなメリットを受ける潜在的な可能性がある。ホワイトカラー業務の自動化は労働力の減少に直面する日本にとって、労働生産性を向上させ、競争を続けるための重要な鍵となるのではないかと。



元金融業界の風雲児が挑むRPAビジネス ロボットの活用でオフィス業務が一変する日

元金融業界の風雲児が挑むRPAビジネス

ロボットの活用でオフィス業務が一変する日

-日経BP社 IT Pro Special 2017年5月23日

人は創造的活動に集中

「前職で取り組んだ業務改革の一環としてロボティクス・プロセス・オートメーション (RPA) に出会い、その革新性に計り知れない可能性を感じたのです」と語るのは、UiPathの日本法人で代表取締役CEOを務める長谷川康一氏だ。



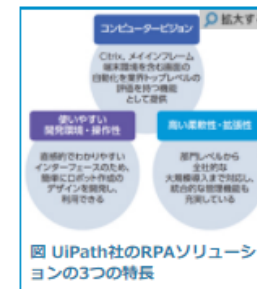
同氏は、アーサー・アンダーセン、ゴールドマン・サックス証券、バークレイズ証券などで活躍した、業界では名の知られた人物。バークレイズ証券時代にはアジア最高情報責任者 (CIO) を務め、アジア全体で1万人の部下を従えた。その華々しい経歴を投げ打って長谷川氏が参画したUiPathは、英国発のRPAベンチャーだ。ベンチャーとはいえ、業界をリードする主要RPAベンダーの1社に数えられ、世界で200社に導入実績がある。

日本を世界の中でも最重点市場と考えるUiPath社は他の主要RPAベンダーに先駆けて、2017年2月24日に日本法人を設立。長谷川氏をCEOに迎え、わずか3人体制で新たなスタートを切ったのである。

長谷川氏はRPAにどんな可能性を見いだしたのか。それは、技術の進化によってRPAが定型業務 (ルーチンワーク) を広範囲にわたり圧倒的なスピードでカバーできるようになった上、人に代わって複雑な業務にも対応し始めたことだと言う。

「例えば、RPAが売上システムやWeb、メール、エクセル、Citrixなどに次々アクセスし、これまで半日かけてまとめていた月初の売上集計レポートを、ほんの数分ですぐ作り上げるといったことも可能です。これで人がやるべきことは、それを基に販売戦略構築を練るなど創造的な活動に集中できます」と長谷川氏は語る。これは夢物語ではなく、すでに欧米の先進企業では実現されている業務風景だ。

メガバンク、大手企業複数社が導入へ



なぜそうしたことが可能になるのか。RPAが様々なシステムや技術と連携することが可能になったからだ。とりわけUiPathのRPAソリューションは、メインフレームやSAPなど基幹業務を担う既存システムとも連携が可能で、そのデータを取り込んで計算、チェック、照合作業などを自動化することが可能だ。「ロボットがコンピュータ画面上のデータ項目を認識するため、スクリーンレイアウトが変わっても必要なデータ項目を自動的に追認できるのです」(長谷川氏)。

もちろん、AIやコグニティブなどの最新技術との連携も続けていく予定だ。そうなれば、手書き書類のデジタルデータ化が進むほか、ワークロードの推移を予測検知することも可能になる。

同社のソリューションの特長はそれだけではない。部門レベルの導入から全社的大規模導入まで対応する高い柔軟性・拡張性を備え、統合的な管理機能も充実している。つまりスモールスタートではじめ、徐々に使用領域を広げられるわけだ。

さらに使いやすさも大きな特長だ。「インタフェースは直感的でわかりやすい。エンドユーザー主体で開発・利用する自動化が可能です。もちろんIT部門のサポートを受けて」と話す長谷川氏。これにより、業務を知る現場当事者が、スピード感をもって業務改革を推進していけるわけだ。

こうしたメリットが着目され、国内でもメガバンク、大手広告会社、大手企業複数社がUiPathのRPAソリューションを導入しつつある。狙いは働き方改革の推進や収益力の向上等だ。競合他社と差別化を図り、RPAを軸として、次世代を見据えた業務改革に取り組んでいるという。

UiPath社は日本のRPAのリーディングカンパニーとなることを目指し、人員の拡充やサポート体制を強化していく。「日本法人の陣容も2017年中に20人規模まで増強を予定しており、またUiPath Academyという無料オンライントレーニングも日本語で提供しはじめた」と長谷川氏は意気込む。

ロボットの活用でオフィスワークの生産性は劇的に向上する。UiPathはそのためのRPAソリューションの提供を通じ、次世代に向けた社員の創造性の発揮、企業の本質的競争力強化に貢献していく考えだ。

プレスリリース (11/11)

UiPathは日本を世界の中で最重要市場と位置付け、日本オフィスを開設し、日本でのサービスの充実を目指すことを発表（2017年3月28日）、また、それに向けたベンチャーキャピタルからの3,000万ドル資金調達についても発表（同年4月28日）

日本法人設立により、世界有数のロボティクス市場でRPAサービスの提供機会を拡大

東京 2017年3月28日 — UiPath社（本社：英国、CEO：ダニエル・ダインズ）は、このたび日本法人UiPath株式会社（本社：東京都千代田区 代表取締役CEO：長谷川 康一 以下、UiPath 株式会社、資本金3,000万円）を設立したことを発表しました。UiPath社は、RPAを提供するリーディンググローバル企業の中で、日本法人を設けた、初の企業となります。UiPath社は日本法人の設立により、金融サービス業界をはじめとする既存顧客へのサービスの向上、グローバルなコンサルティング・ファームや日本のシステム・インテグレーターとの連携の強化を通じて、顧客基盤を広げていきます。このたびの日本法人設立は、UiPath社のアジアでの基盤もより強固にします。

UiPath社の設立者でありCEOのダニエル・ダインズは、次のように述べています。「世界のRPA市場は2024年には87億5,000万ドルに達すると予測されており、中でも日本はこの流れをリードしていくと考えています。UiPath社は、グローバルに最も急成長を遂げているRPAベンダーの1社であり、**今回の日本拠点の開設によって、その成長は一層加速されます。日本法人の設立によって、既存および新規のお客様に、より幅広いサービスを提供することができると考えています。**」

UiPath株式会社の代表取締役CEOには、長谷川康一が就任しました。長谷川は、テクノロジーおよび金融サービス業界において、豊富な経験を持ち、UiPath社の日本での事業の成長を牽引していきます。

長谷川は次のように述べています。「日本において、多くの企業、研究機関や公的セクターに、パートナー企業と協力しながらUiPath社のRPAソリューションの提供力を強化できることを嬉しく思います。われわれの提供する直感的かつ拡張性の高いRPAソリューションは、**日本の企業の先進的な業務ニーズに適しており、品質とサービスを維持しながら、お客様の生産性の向上と効率性の改善に大きく貢献できると思います。**また、日本法人の設立によって、日本人スタッフによるサービス・サポート体制を整えることができ、今後も日本市場での活動をより強化していきたいと考えています」

UiPath、ベンチャーキャピタルファンドの最大手であるAccel社がアレンジした案件により、3,000万ドルのシリーズA資本を調達

東京 2017年4月28日 — 世界有数のロボティクス・プロセス・オートメーション（Robotic Process Automation 以下、RPA）ソフトウェア企業であるUiPathは、世界有数のベンチャーキャピタル、Accel社がアレンジした、3,000万ドルのシリーズA*1による資金調達を実施したと発表いたしました。

UiPath社は、今回の調達した資金を、飛躍的に需要が高まっている北米、西欧、インド、東南アジア、そして日本といった市場での採用を強化するために使用します。

UiPath社は短期間で急成長を達成し、世界中で150社ものITベンダーやコンサルティング会社と提携しています。**日本ではインテグレーション・ベンダーとして電通国際情報サービス(ISID)、NTTデータ、野村総合研究所 (NRI) と協力してサービスを提供していきます。**

現在、銀行、金融機関、保険会社、製造業、公益会社、ヘルスケア、行政機関など既に200社以上のお客様にサービスを提供しています。UiPath社は、今後7年間で90億ドル*2になると予想されているRPA市場のトップ企業です。最新のForrester Wave Robotic Process Automation の2017年第1四半期レポートで、UiPathはRPA市場における有数のリーディング企業であり、業界で最も高い実績を残していると評価されました。また経営コンサルティング会社であるエベレストグループにより、市場に与えた影響を称え、「2016年RPAスターパフォーマー」として評価されています。

UiPath社の創業者であるダニエル・ダインズは、次のように述べています。「一般の資金調達により、世界中の多くの企業にインテリジェントRPAのメリットを紹介することができると同時に、急速に発展を遂げている業界の最前線にあり続けることができます。我々は、事業とビジネスを発展させている人々の仕事を、より創造的で価値あるものにし、ビジネスと経済の発展に貢献したいと考えています。プロセスの自動化を検討したことがなかった組織に、自動化を実現させる、大きな潜在的な市場があると思っています」。

UiPathの日本法人のCEOである長谷川康一は次のように述べています。「UiPathは、今年、日本法人を設立し、着実に業務を拡大してまいりました。**既にメガバンク、大手製造業者、エネルギー関連会社、広告会社にサービスを提供しています。日本はUiPathにとって非常に重要な戦略市場であり、お客様にきめ細かいサービスを提供できるように、年内に、20人規模へ陣容を拡大する計画です。また日本語AIベースのOCRや日本のAI/Cognitiveベースのテクノロジーとの連携も進め、商品の利便性を高めていきます。**」